

# 交通安全教育

Traffic Safety Education

No.628

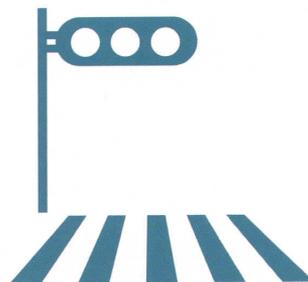
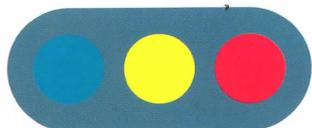
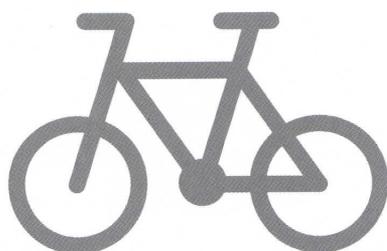
Monthly

8

2018

【特集】

## 交通弱者を優先する交通ヒエラルキー —道路を横断する歩行者に対する運転行動—



# 交通安全教育

Traffic Safety Education

Contents

2018 8 月号

No.628

特集	交通弱者を優先する交通ヒエラルキー —道路を横断する歩行者に対する運転行動— . . . . . 6
	加藤 麻樹 / 早稲田大学人間科学学術院准教授

■ フォトレポート . . . . . 1

## 連載

■ 歩行者の交通安全 . . . . . 14  
(5) 「子どもと高齢者2 子どもとの交通場面での能力発達」  
松浦 常夫 / 実践女子大学教授

■ 道路利用者としての人の特性 . . . . . 22  
(23) 「降雨時の横滑りのリスク及び視認性」  
牧下 寛 / 元科学警察研究所 交通科学部長

■ 事故を考える . . . . . 28  
—工学的な事故解析から考える交通安全—  
(121) 「バイク事故を考える (その2)」  
上山 勝 / NPO法人交通事故解析士認定協会理事長

■ 実践事例 . . . . . 34  
小学校における取り組み 10年後、20年後を見据えて  
片山 昇 / 交通教育NPO OSCNじてんしゃスクール 代表

■ 交通安全ニュース . . . . . 38  
◇平成30年度交通安全ファミリー作文コンクール募集について  
◇平成30年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品決定

■ 次号予告・編集後記 . . . . . 40



# 小学校における取り組み 10年後、20年後を見据えて

交通教育NPO OSCNじてんしゃスクール 代表 片山 昇

## 1 子どものリスクマネジメント

「市民がつなぐ交通教育ネットワーク」という題で、本誌2016年8月号（No.604）に実践事例を寄稿させていただきました。

今回は、2017年度の取り組みの中から、公立小学校における実践を報告いたします。テーマは、「10年後、20年後を見据えた 義務教育における交通安全教育」。

10年後といえば、小学1年生の子どもが高校生に。通学で自転車利用が急増する頃です。20年後は、おそらく自動車の運転免許を取得していることでしょう。成長していく子どもたちが、リスクマネジメントをできるようになること、それこそが、安全な交通社会実現への確実な近道である、と私は考えます。

## 2 良い手本

プログラム作成では、3点を重視しています。

1つ目は、良い手本を見せること。悪い手本は、子どもにとっては面白く、強く印象に残ってしまいます。ルールをしっかりと守る＝かっこいい、というモデルの刷り込みをします。

2つ目は、児童自身が気づき、考える内容であること。その方法の一つとして、学校周辺で撮影した写真や動画を取り入れています。

3つ目は、教員の交通参加者としての当事者意識を喚起し協働すること。授業は、交通安全に関心を持つためのきっかけづくりの場に過ぎません。大事なのは、その後の継続的な教育であることは言うまでもなく、そのために、事前

打ち合わせの段階から教員と共に地域の交通状況把握などを進めていきます。

## 3 まずは、自転車に乗ってみましょう

校区内のどこを危険個所として認識しているかヒヤリングを行い、それをもとに地域の状況を調べます。その際、インターネット上のデジタルマップや本田技研工業の「セーフティマップ」は、とても参考になります。

「自転車の安全運転をどのように教えてよいか分からない。」という声も耳にします。教員自身が普段、自転車に乗る機会がほとんどないこともめずらしくありません。

そのため、事前の打ち合わせにおいて、担当教員と共に自転車に乗車します。ヘルメットの正しい着用、基本操作、安全確認動作などをひとつひとつ確かめながら、校区内の道路を走る。そうすることで、問題意識が芽生え、児童に伝えるべき内容が見えてきます。

## 4 動画に先生が登場

校区内の横断歩道や見通しの悪い場面で、歩行者役や自転車運転者役となった教員が、安全確認を的確に行います。児童と同じように歩行時は黄色い登校帽を、自転車乗車時はヘルメットを着用。その場面を写真や動画で撮影し、交通安全動画として編集します。

体育館において、全校や学年に向け一斉指導をする場合、その動画をもとに児童に説明するコーナーを設けます。見慣れた風景に教員が登場する場面は、児童にとっても臨場感があり、

# 小学校における取り組み 10年後、20年後を見据えて

ぐっと注目度が増します。教員自らが、周辺の交通当事者となることで児童の命を守るための授業に深みを帯びてきます。

次に、3タイプの取り組みを紹介します。

## 5 一斉指導タイプ

【OSCNプログラムによる一斉指導】

実施校：長久手市立 長久手小学校（全校）  
市が洞小学校（1・2年 学年別）  
日進市立 赤池小学校（1年生）

実施時間：50分～60分

場 所：体育館

<スケジュール 60分>

- ①（1分）あいさつ
- ②（3分）GIANTストア名古屋指導員によるバランス模範走行  
・ ゆっくり走ることの大切さ
- ③（5分）愛知県警察第一交通機動隊自転車対策小隊B-Forceが自転車で登場
- ④（3分）交通ルールクイズ
- ⑤（8分）交通安全動画（教員が登場）  
校区内での安全確認動作（歩行と自転車）
- ⑥（3分）NHKニュース（JAFの報告）  
横断歩道でも止まらない車
- ⑦（5分）安全確認動作を全員で練習  
右・左・右・後ろ
- ⑧（6分）GIANTストア名古屋指導員によるヘルメットの正しいかぶり方
- ⑨（18分）B-Forceによる模範走行  
児童数名と教員1名が体験
- ⑩（5分）B-Forceとのお約束
- ⑪（3分）代表児童からお礼の言葉・講評

教員が児童役となつて  
良い手本を示す



撮影  
校区内の横断歩道での

<児童の感想 ふりかえりシートから>

- ・横断歩道は、渡る前だけでなく、渡っているときも車とかが来ないか、チラチラ見なくてはいけないとは、知らなかった。
- ・クイズで黄色信号のことを知った。本当は、止まれという意味だったことは知らなかった。
- ・ベルを人に「どけどけ」ってやってはだめなことが、心にひびいて、命にもひびいた。

<教員の感想>

保護者にもぜひ、見てほしい内容だった。

## 6 クラス別指導 3段階タイプ

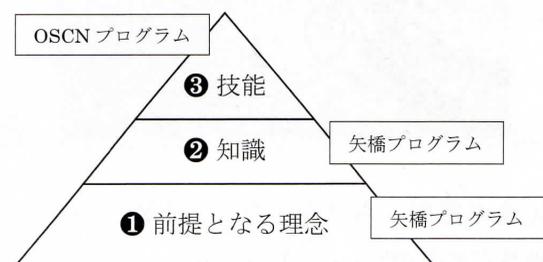
【矢橋方式とOSCNとの合同プログラム】

実施校：尾張旭市立 三郷小学校

4年生①・5年生②・6年生③

実施時間：各45分

場 所：教室①② 運動場③



- ①前提となる理念：公共マナーと順法
- ②知識：交通規則の知識と危険回避能力
- ③技能：自転車操作の基本



# 小学校における取り組み 10年後、20年後を見据えて

①②の矢橋プログラムについては、矢橋昇氏が本誌2016年7月号（No.603）に詳述している、特集「子どもの交通安全と大人の役割」を参考にさせていただきたい。

## <③技能のスケジュール 45分>

6年生全員が体験（ヘルメット持参）  
レンタル自転車を交代で、2人1台使用

- ①（1分）あいさつ
- ②（5分）見通しの悪い場所での動作実演  
守山警察署交通課署員と合同
- ③（3分）準備体操
- ④（3分）ヘルメットの正しいかぶり方
- ⑤（30分）自転車操作の技能練習  
ア 基本スキル(左から乗る・左足をつく・ブレーキ操作・右左右後ろの安全確認動作)  
イ 安全確認、まっすぐ走り停止線で止まる  
ウ 安全確認、スラローム、停止線で止まる
- ⑥（3分）講評

自転車操作の実技



## <児童の感想 ふりかえりシートから>

### ①理念について

- ・公共の場所では譲り合うということを知った。
- ・自分が気づいていないところで、人に迷惑をかけていることもあるということを知った。

・交通安全はマナーとつながっているということがよく分かった。

### ②知識について

- ・駅の階段に、上り下りの方向表示があることを知らなかった。これからは守ろうと思った。
- ・自転車は車と同じ仲間。「止まれ」の標識で止まり、車道では左端を通ることを学んだ。
- ・車は急には止まれない、ということを知った。

### ③技能（自転車操作）について

- ・自転車を運転して「右・左・右・後ろ」を見たときに、安全確認の大切さが分かった。
- ・まっすぐ走るのが思ったより難しかった。
- ・野球のヘルメットは、あごひもが無いので、自転車に乗るときには意味がないということを知り初めて知った。（野球ヘルメット持参の児童）

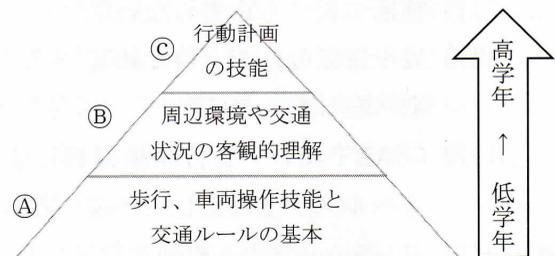
## <教員の感想>

このような学習機会は必要だと感じた。子どもが自転車を学校に持参することは難しい。自転車を借用することができたので助かった。

## 7 年間指導タイプ

【小学校の交通安全担当としての取り組み】

実施校：日進市立 赤池小学校



<下校前> 唱和と動作で習慣化

「命を守る合言葉 右・左・右・後ろ」

児童は、動作つきで唱和して下校。

# 小学校における取り組み 10年後、20年後を見据えて



集会で良い手本を示す  
交通安全自転車クラブ員

## <集会> (全校朝会・児童集会)

自転車クラブ員児童と担当教員による手本披露。

## <教員対象>

職員会議において、ハインリッヒの法則などを学習する機会を設けた。また、日本各地で児童が巻き込まれた最近の交通事故事例をまとめ、随時、回覧により情報共有を図った。

## <保護者対象>

保護者の交通安全意識向上のため、懇談会期間校内においてチャイルドビジョン体験コーナーを設け、随時、子どもの視野の狭さを実感していただいた。

## <各学年対象>

<p>&lt;1年生&gt; ① 60分×1回 体育館 担当教員と外部講師 前述、「5 一斉指導タイプ」に記載</p>
<p>&lt;2年生&gt; ① ② 45分×1回 教室 担任指導 使用教材 ・交通安全DVD『なぜ、どうしてから考える、小学生の自転車の安全な乗り方』東映制作 愛知県県民生活部地域安全課から借用 ・KYT冊子『このあとどうなる？このあとどうする？』（一財）日本交通安全教育普及協会刊 ・マグネットつきの絵 (交差点、自動車、人)</p>

<p>&lt;3年生&gt; ① ② 60分×1回 体育館 交通安全担当者 交通ルール(標識)と自転車実技</p>
<p>&lt;4年生&gt; ① ② 45分×2回 教室 外部講師 矢橋プログラム</p>
<p>&lt;5年生&gt; ① ② ③ 45分×2回 教室 担任指導 使用教材 ・KYT冊子『かくれた危険と安全行動』 (一財)日本交通安全教育普及協会刊 ・保健体育教科書『けがの防止』の項目</p>
<p>&lt;6年生&gt; ① ② ③ 45分×1回 教室 担任・交通安全担当指導 使用教材 ・交通安全DVD『人に優しい自転車の乗り方 ～なくそう!!暴走運転～』東映制作 愛知県県民生活部地域安全課から借用 ・ホンダ「セーフティーマップ」</p>

## <児童の感想 ふりかえりシートから>

- ・自分が見えていないところにもいろいろな危険があることを知った。
- ・初めは、次に起こるかもしれない危険が分からなかったが、だんだん分かってきた。
- ・安全のためには、余裕をもって行動することができるように、自分をコントロールしたい。

## <教員の感想>

冬休みの間も、子どもたちが交通事故に遭うことなく過ごすことができた。日頃の交通安全教育の成果だと感じる。

## 8 子どもたちの未来のために

子どもたちが自分自身の命を守れるようになってほしい。そのために、義務教育の場での交通安全教育を、今後も、地道ながら進めていきたいと思えます。